果樹の「クビアカツヤカミキリ」対策について

農学博士

群馬県利根沼田農業事務所

～早期発見･早期防除に努めましょう～

1はじめに

「クビアカツヤカミキリ」は、モモ、スモモ、オウトウ、ウメ、サクラなどのバラ科サクラ属の樹体に寄生する特定外来生物です。

一般的な「カミキリムシ類」に比べて幼虫の樹体内の摂食量が多く、また繁殖力が強いため、被害を受けると樹体の枯死など農業生産に深刻なダメージを受けます。

平成29年に県内で初確認されて以降、確実に生息域が拡大してきており、令和６年には沼田市、みなかみ町で、令和7年には川場村、昭和村で樹体被害が確認されています。

図１「クビアカツヤカミキリ」成虫

2生態

成虫の体長は20～40ミリで、体全体はツヤのある黒色をしています。胸部（クビ）が赤色なのが特徴です。

図２「クビアカツヤカミキリ」生活環

図３ 生活環の詳細

卵から孵化した幼虫は自ら樹体内に食入し、フラスと呼ばれる糞と木くずの混合物を排出します。幼虫は樹の中で２～３年かけて成長し、成虫になると樹から脱出します。成虫の発生時期は６～８月頃で、幹や枝の樹皮に産卵します。

一匹のメスが生涯平均で約350個産卵するなど、繁殖力が強いです。成虫の寿命は２週間以上です。

3対策

①園内の点検（発生状況確認）

園内を見回り、成虫の飛来やフラスの発生を確認しましょう。

他のカミキリムシ類やコスカシバと違い、かりんとう状の大量のフラスが特徴です。

②成虫を発見したら

特定外来生物に指定されているため、生きたままの移動は禁止されています。その場ですぐに捕殺してください。

③薬剤を散布する

成虫が発生する６月中旬～８月上旬に登録薬剤を散布します。薬剤散布はスピードスプレーヤーのノズルの向きを変えるなどし、樹幹にもしっかり薬剤がかかるよう散布します。

④フラスを発見したら

フラスの排出があった場合は、孔道に沿って樹皮を剥ぎ、直接幼虫を捕殺することが最も効果的です。また、捕殺できない場合は、排出孔のフラスを良く取り除き、樹幹注入剤を散布してください。

4最後に

適切な予防措置や早期発見により、地域内での定着や増殖を防ぎましょう。

もし、成虫やかりんとう状の大量のフラス発生を確認した場合は、利根沼田農業事務所担い手・園芸課へご連絡をお願いします。

担い手･園芸課 園芸係（高橋宗文）

農業技術に関するお問合せ　TEL 23-0188